



令和3年度第1号 3. 10. 29 発行

# 相双社会教育だより

福島県教育庁相双教育事務所



## 震災の記憶と教訓を 読書の力で伝えたい 新たな読書活動ビブリオバトルを広げよう

読書活動支援者育成事業相双地区研修会 令和3.9.3(金) 於)オンライン及び環境放射線センター

今年度の研修のねらいは、「震災の記憶と教訓を読書活動で伝える」「ビブリオバトルにチャレンジ」の2本柱として、以下の講話と実践発表を行いました。

### ○「本でつなぐ、記憶をつなぐ

3.11を伝えるためのブックトーク」

(南相馬市立中央図書館 主任司書 佐藤 真紀 氏)

- ・震災を知らない子どもたちが、少しでも震災のことを知ったり考えたりするきっかけになる絵本をご紹介します。震災の記憶や体験を伝え続けることの重要性を感じさせられました。



### ○「請戸小学校物語～語り部の話」

(東日本大震災・原子力災害伝承館

企画事業部事業課担当 横山 和佳奈 氏)

- ・震災当時小学6年生であった横山氏。一人の犠牲者も出さずに避難できた事実と教訓を紙芝居を通して、真に迫る語りで伝えていただきました。



### ○「子どもから大人までみんなで楽しむ本のコミュニケーション ～“ビブリオバトル×地域おこし”実践記録から～」

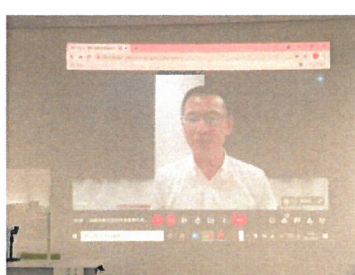
(前小野町地域おこし協力隊 宍戸 佳織里 氏)

- ・ビブリオバトルの進め方のスキルを中心に、小野町の学校や住民を対象に実践された事例を話していただきました。「ビブリオバトルは目的ではなく、本のことを人に話すための手段です。」という言葉が印象的でした。

### ○「ビブリオバトル～ディベート部での実践から～」

(福島県立ふたば未来学園中学校 教諭 檜村 弘一郎 氏)

- ・中学生が取り組むディベートとビブリオバトルには接点があること、ディベートがビブリオバトルのスキルアップにつながることを、熱く語っていただきました。(今年度の「ビブリオバトル福島県大会」にふたば未来学園中学校の3年生1名が挑みます！)



◆ 本研修会は、コロナ感染拡大と台風接近による会場変更と開催延期。受講者の皆さんには大変ご迷惑をかけました。お詫び申し上げます。コロナ禍だからできないではなく、いかにして実施するかを考え、今後の研修会も工夫して参りたいと思います。



## 自然体験活動・伝統文化体験を通して、地域の魅力発見！

過疎・中山間地域振興事業「相双ふるさと体験ツアー」(相双地方振興局・相双教育事務所共催事業)

この事業は、相双域内の小学校5・6年生児童を対象に、伝統文化や地場産業を学ぶ体験活動を通して、地域への愛着心を深めさせるとともに、次世代を担う人材を育成することをねらいとしています。

- ・ 実施期日 8月3日(火)
- ・ 実施会場 川内いわたの郷、株式会社「農」いちご栽培施設
- ・ 参加者数 19名(45名もの応募があり抽選となりました)
- ・ 体験活動 ① いわた釣り体験(さばき、塩焼き)  
② 大堀相馬焼陶芸体験  
③ かわうちいちご栽培施設の見学



子どもたちは、いわたをつり上げ、さばき、塩焼きにして食する体験を通して、川内村の自然の豊かさを体感することができました。また、300年以上続く伝統工芸品である「大堀相馬焼」の歴史を学び、手ねりで、粘土を重ねたり広げたりして思い思いの作品づくりに取り組みました。さらに、川内村で始まった夏いちごの栽培施設を見学し、いちごの周年栽培のためには温度管理の工夫がされていることを学びました。

子どもたちには、この体験ツアーを通して川内村の魅力を感じることができたように、これからも「自分たちのふるさとのよさ」をたくさん発見してほしいと思います。

## 相双域内における家庭教育推進の取組を紹介します

- 親子の学び応援講座／南相馬市立大甕小学校父母と教師の会 教育講演会
- 家庭教育応援企業等推進活動／株式会社菊池製作所福島工場(飯舘村)

コロナ禍において、子どもも大人(保護者)も生活環境の変化により、いじめや不登校、児童虐待、精神的孤立等の課題を抱えています。「怒り」をコントロールすることが必要と考えられていることから、南相馬市立大甕小学校父母と教師の会にて、以下の教育講演会が行われました。

- ・ 実施期日 6月25日(金)
- ・ 講師 特定非営利活動法人きぼう 副理事長 新妻 直恵 氏
- ・ 演題 「子育てに生かすアンガーマネジメント」
- ・ 講演内容 大人自身が上手に「怒り」をコントロールするテクニックを学びながら、楽しく子育てに関わります。自分のタイプを診断するワークシートを用いての演習を行い、自分の「怒り」の傾向を知り、「怒り」を減らすコツをつかみました。



いいたて希望の里学園4年生(11名)が、地場産業を学習する(総合的な学習の時間のふるさとを学ぶ「いいたて学」)ために、地元にある「菊池製作所福島工場」を見学しました。

- ・ 実施期日 7月13日(火)
- ・ 活動内容 会社の概要説明と工場案内、質疑応答

子どもたちは、村の会社で働くお父さんや地域の方が、金属・樹脂部品やマッスルスーツ製品等の「ものづくり」に頑張っていることに感動していました。今後、工場では、子どもたち向けの体験メニューも計画していきたいとのことです。